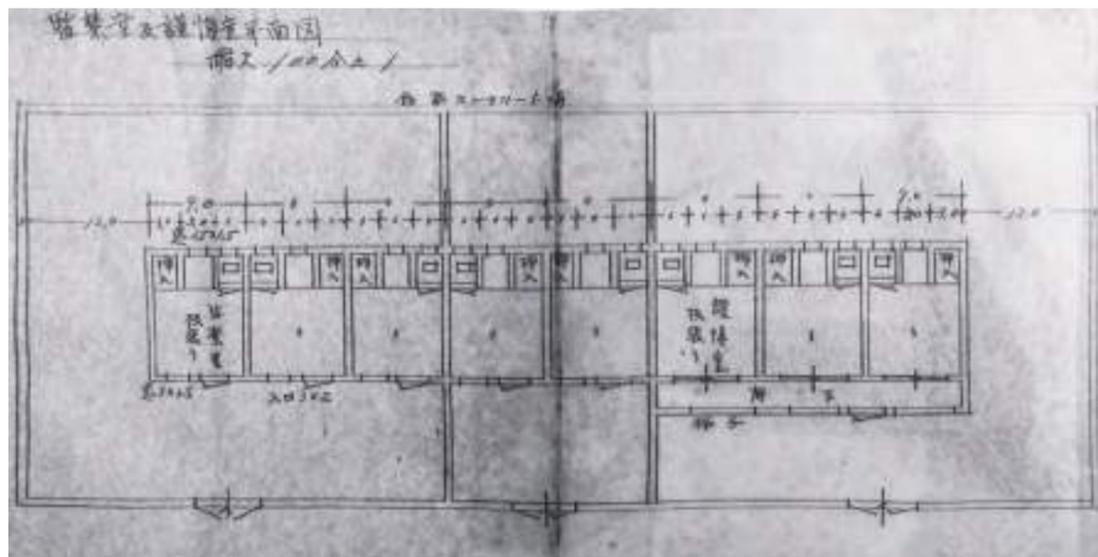


監房跡 史料調査および現地調査中間成果報告

監房内のプラン



監房復原平面図



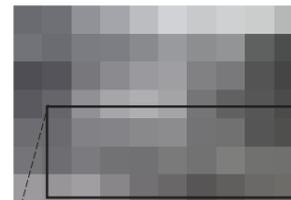
写真1



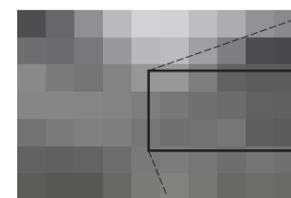
写真2



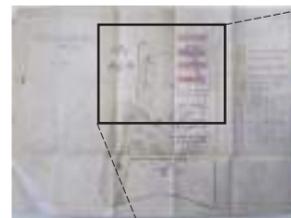
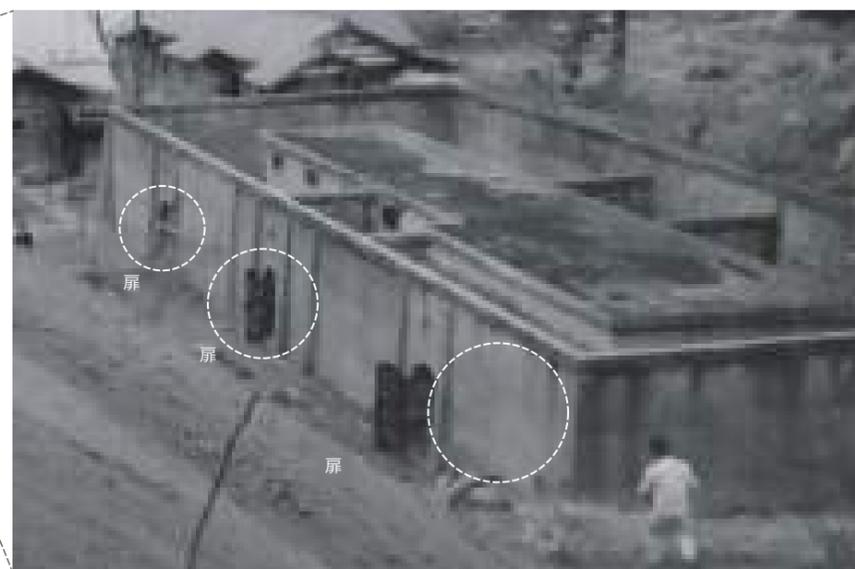
監房復原立面図



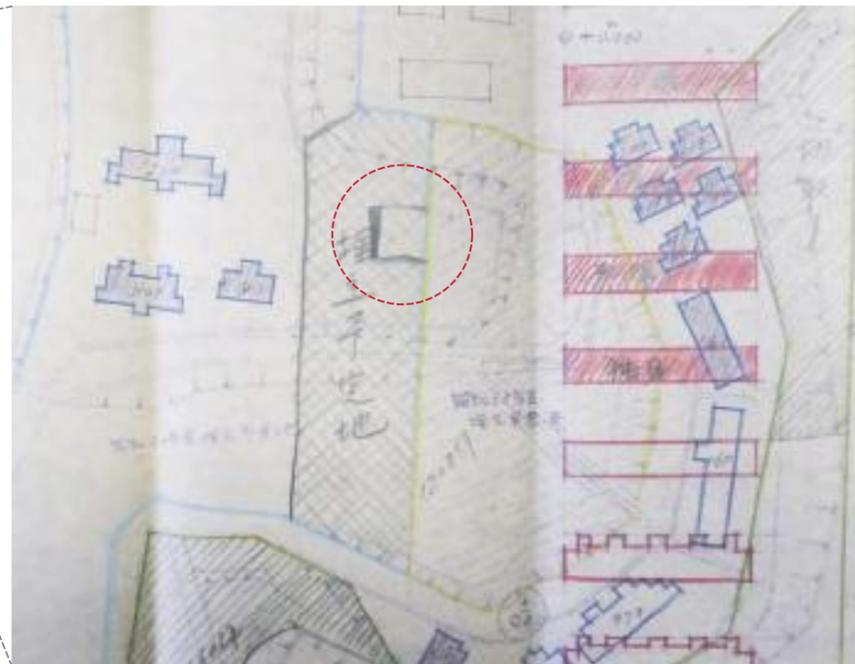
古写真1：監房俯瞰（北西より）



古写真2：監房俯瞰（南東より）



軽症患者地区整地のための造成計画



監房跡 排水処置

観測井戸設置による充滿水観測・排水工法の計画

施工ステップ

Step 1：準備工

- ：観測井戸設置予定箇所（コア抜き・ボーリング予定）周辺を掘削（アスファルト舗装盤カッター切除・人力掘削）
- ：観測井戸 1（Br1）の背面については仮設土のうを積立てる。観測井戸設置後には埋め戻す。（復旧土のうは植生土のうとする。）

Step 2：観測井戸の設置

- (1) 観測井戸 1（Br1）：  
①φ300（コア抜き）
- (2) 観測井戸 2（Br2）：  
①φ116（礫混じり土砂・オールコア）、②標準貫入試験、  
③孔内平板載荷試験、④コア観察

Step 3：建物内部の観察

観測井戸 1（Br1）は、手持ちカメラ・内視鏡カメラ・3Dカメラにより監房内部の様子（土砂の流入状況・水の充滿状況を観察）  
観測井戸 2（Br2）はケーシングパイプ撤去時に内視鏡カメラ・3Dカメラにより内部を観察。

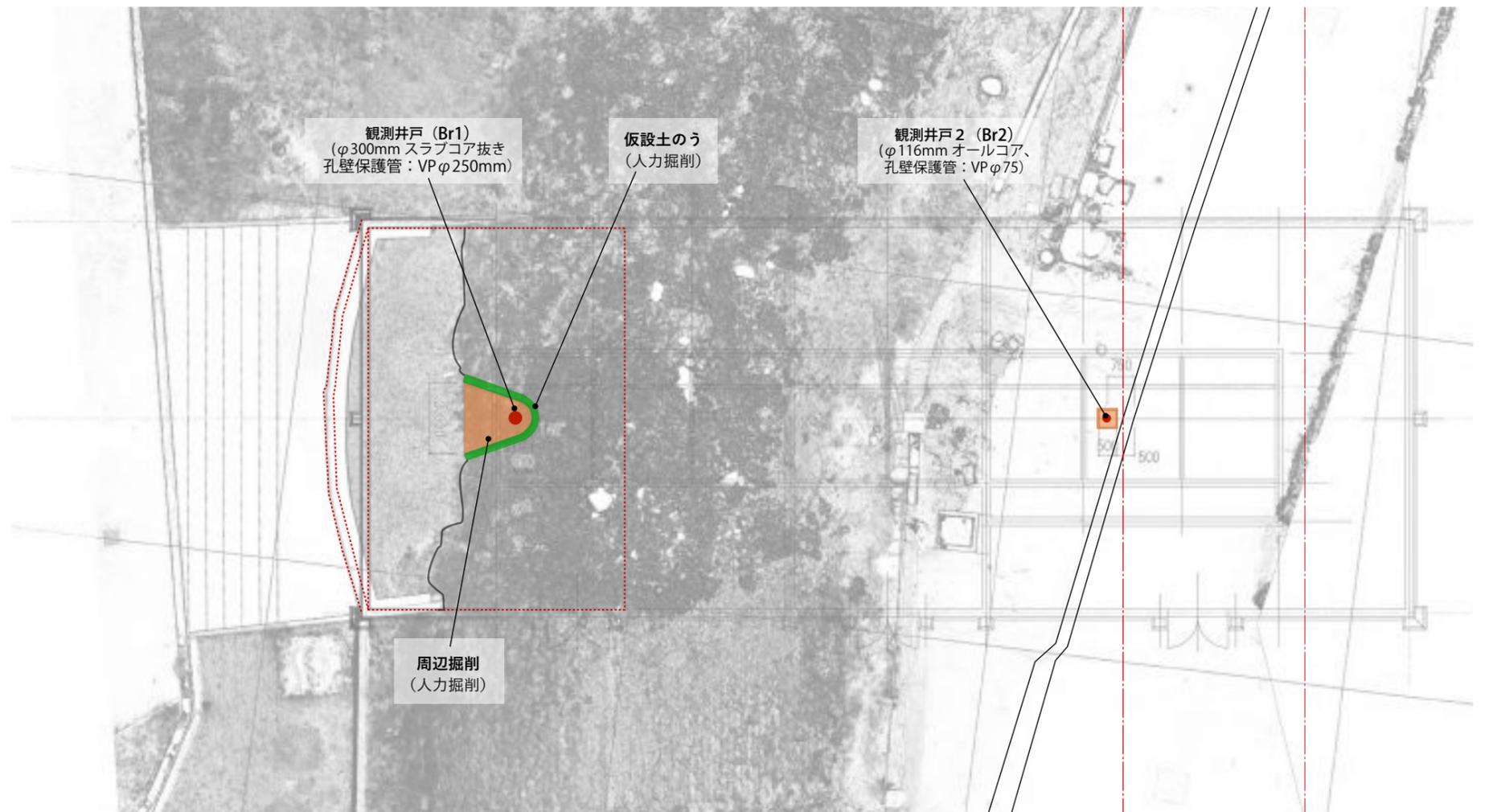
Step 4：孔壁保護管（VP管）設置

観測井戸（Br1）：VPφ250（下部1.0mはストレーナー仕様）  
観測井戸（Br2）：VPφ75（下部1.0mはストレーナー仕様）

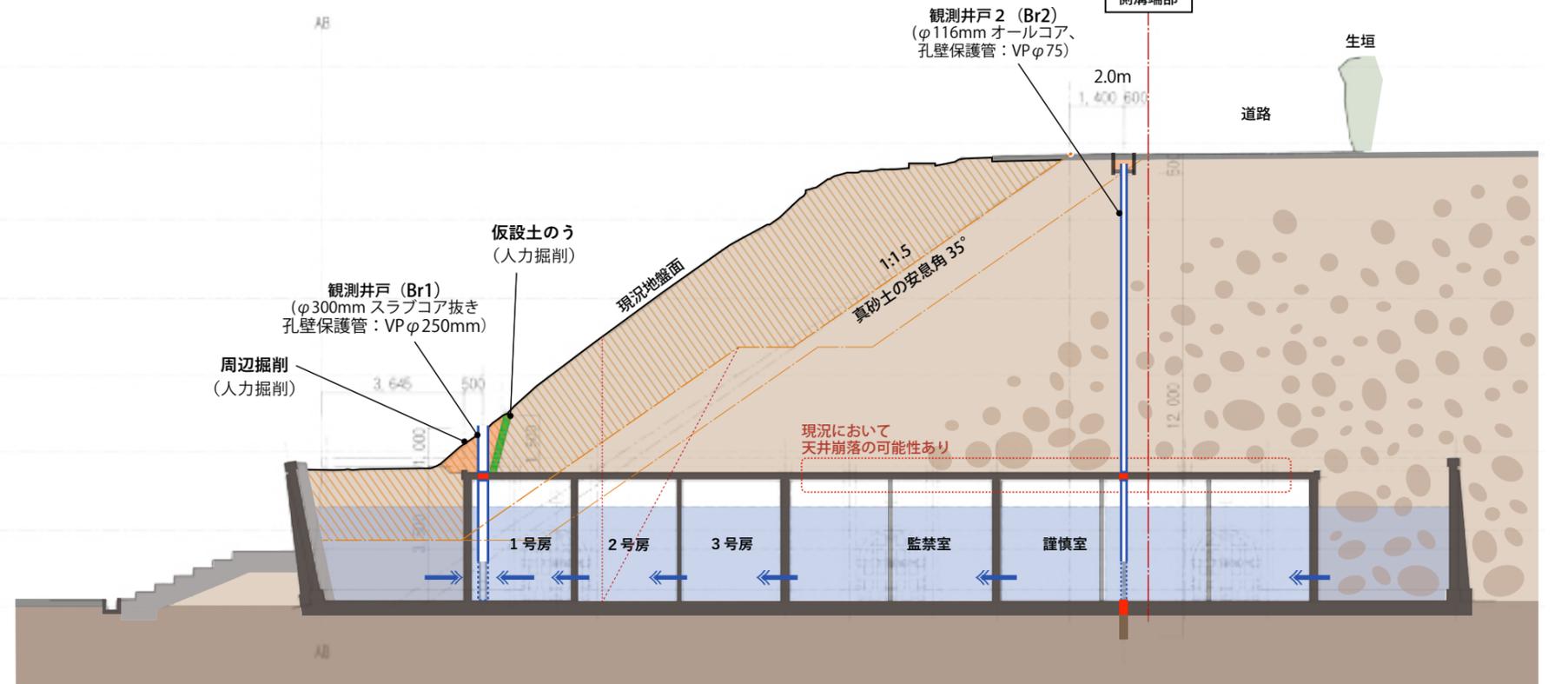
Step5：ポンプアップ・孔内水位変化の観測

1号房を釜場として、観測井戸 1（Br1）より充滿水を小型水中ポンプにより排水すると同時に、観測井戸 2（Br2）にて孔内水位の変化を観測。  
孔内水位計設置：2箇所

近い将来、道路陥没の原因となる大型の空洞が内部に認められた場合は、観測井戸を利用し流動化処理土を充填（応急処置）。



平面図



断面図

0 10M

監房跡 地質調査に伴う監房内部の観察 (Br1 内部カメラ観察)

写真1 上部から部屋全体を見る



写真2

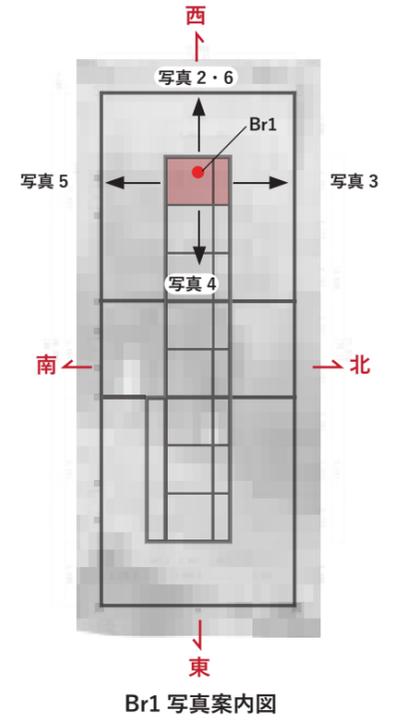


写真3



写真4



写真5



写真6 壁面の落書き



監房天井部へのφ350mm コアリングの様子



監房跡 地質調査に伴う監房内部の観察 (Br1 内部カメラ観察)



西面 (海側)  
落書き (漆喰を削り刻まれた文字)

監房跡 地質調査・水抜き調査に伴う内部観察 (Br2 内部カメラ観察)

写真1 上部から部屋全体を見る



写真3



写真5 北面 (便所・押入)



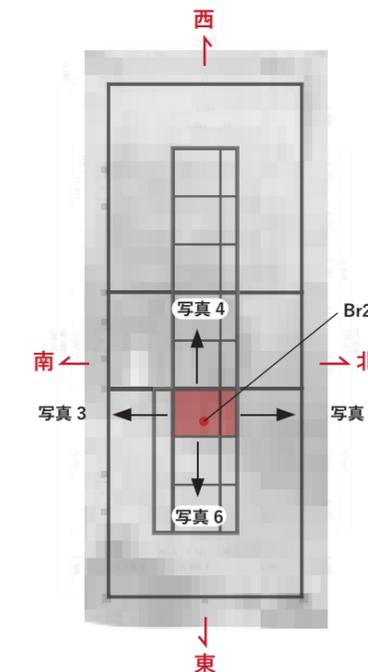
写真2 天井を見上げる



写真4



写真6

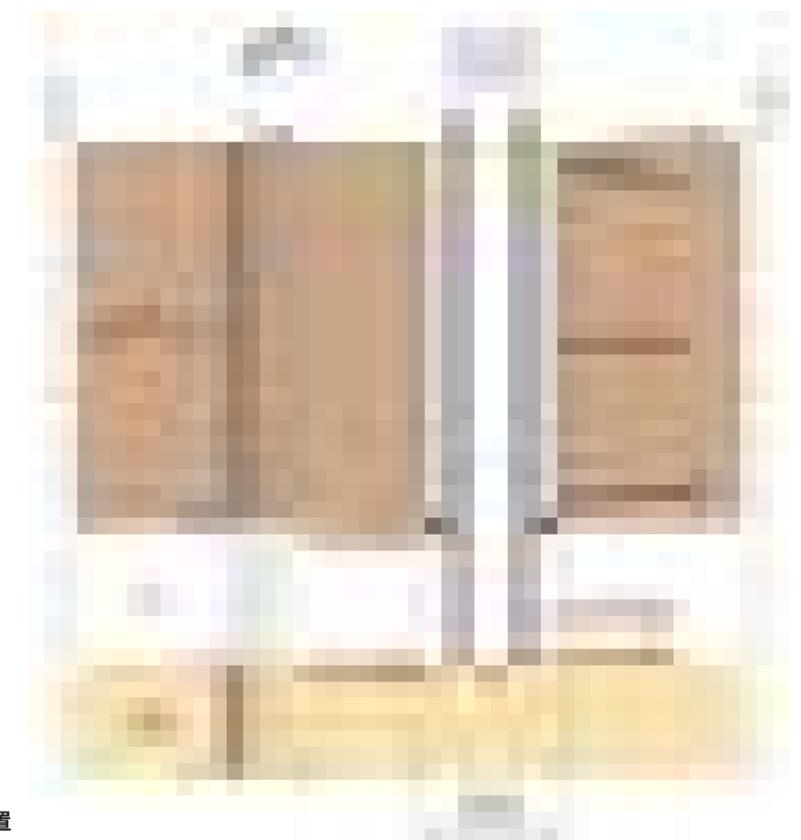
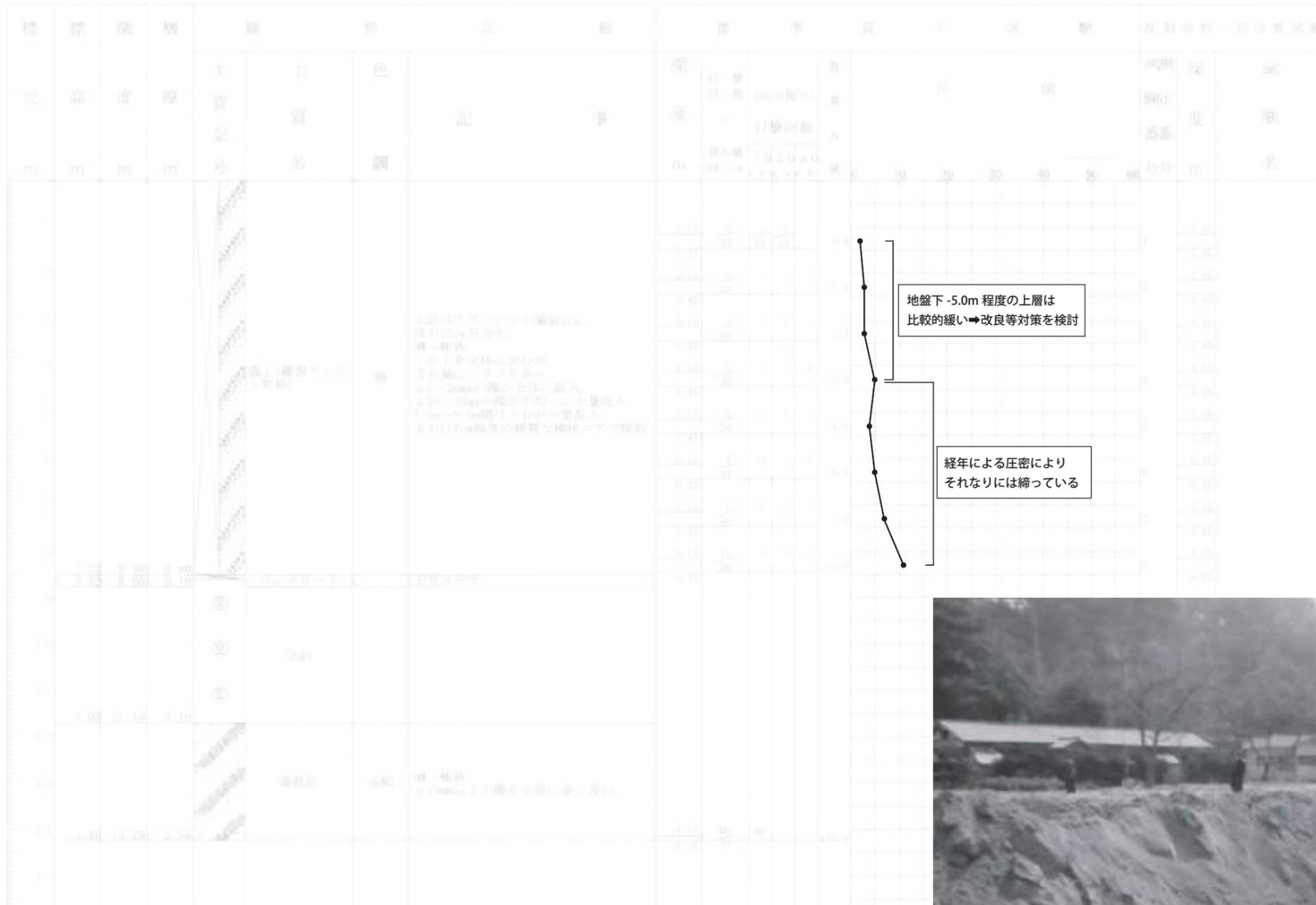


→ 東面の木格子面が壊れ、土砂が内部に流れ込む様子が確認できる (部屋内の水位の上下とともにゆっくりではあるが、土砂の吸込みは続いていると推定される)



謹慎室南側の木製格子

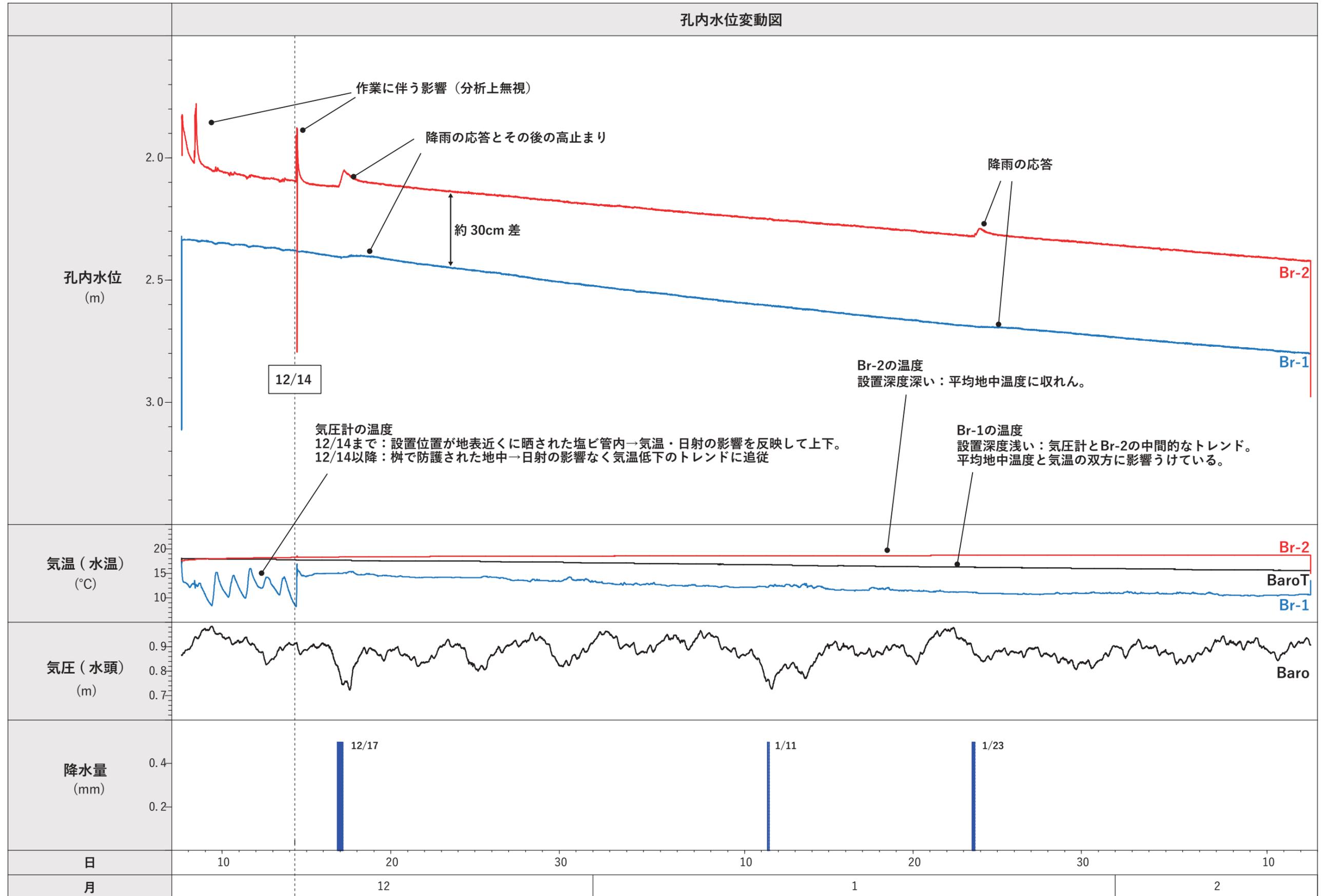
監房跡 ボーリング調査結果 (Br2)



Br2位置



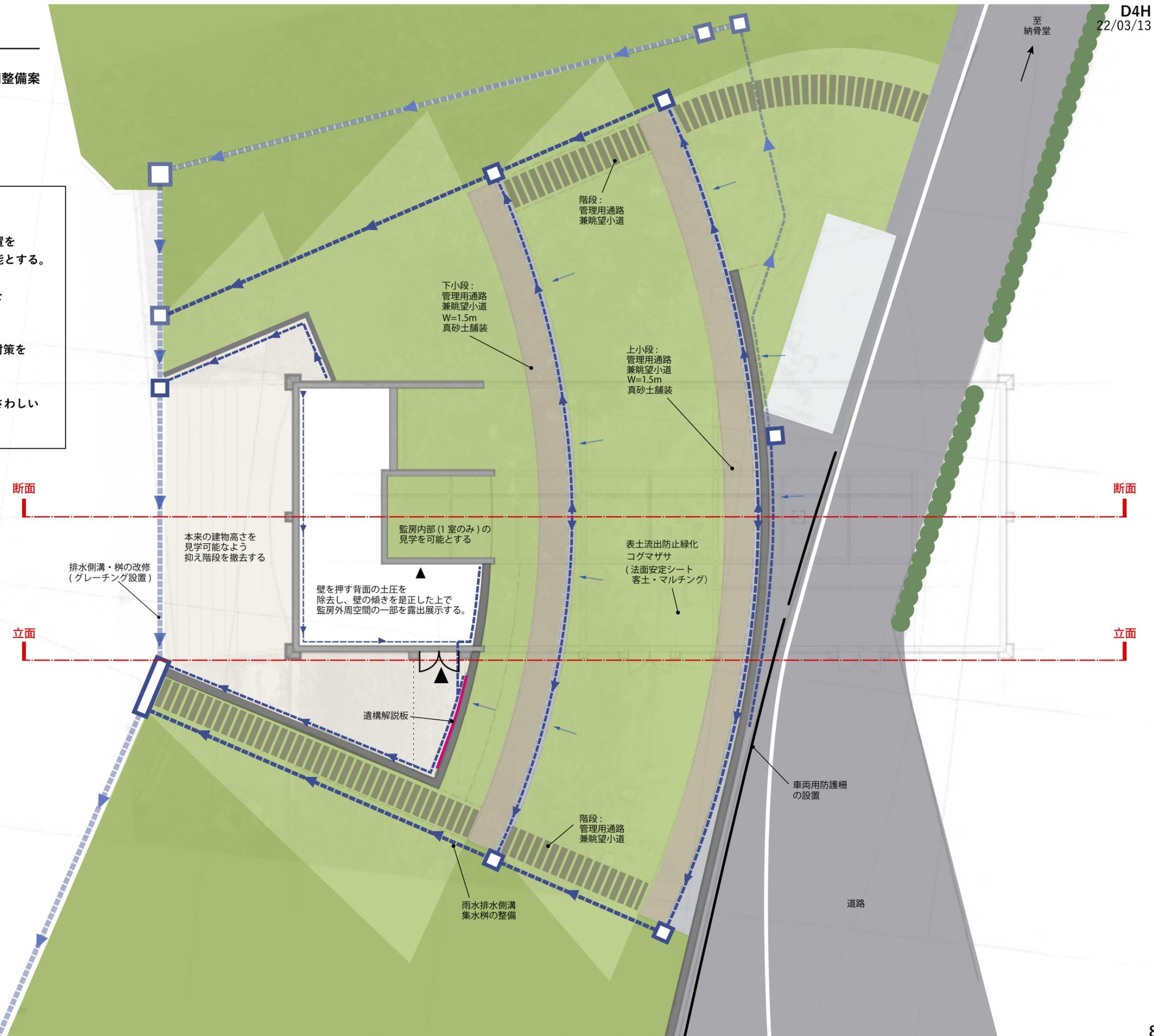
監房跡 孔内水位観測結果 速報値 (20/12/14 ~ 22/2/12)



監房跡 保存（活用）整備基本設計案  
劣化・破損防止 / 保存修理・活用のための短・中期整備案

<整備の目的>

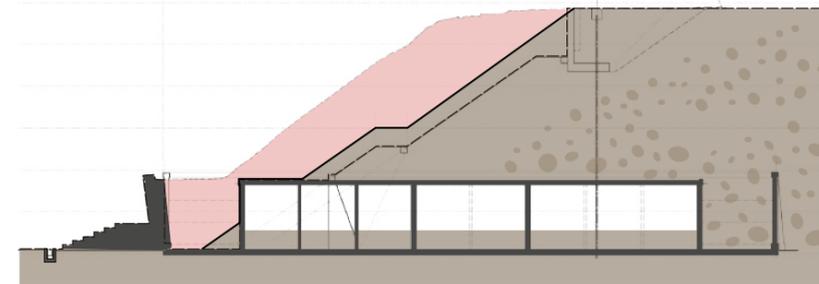
- (1) 監房建物跡の短期・中期的遺構の保護、  
今以上の劣化・破損の拡大を防ぐための予防措置を  
講じることで一部内部の見学に供する活用を可能とする。
- (2) 納骨堂へ向かう主要動線である監房上部の道路を  
安全に利用できる状態にすること。
- (3) 監房埋め戻し部法面の雨水排水対策・土砂崩れ対策を  
講じること。
- (4) 産廃土の除去・処分により、遺構見学の場にふさわしい  
環境整備を行う。



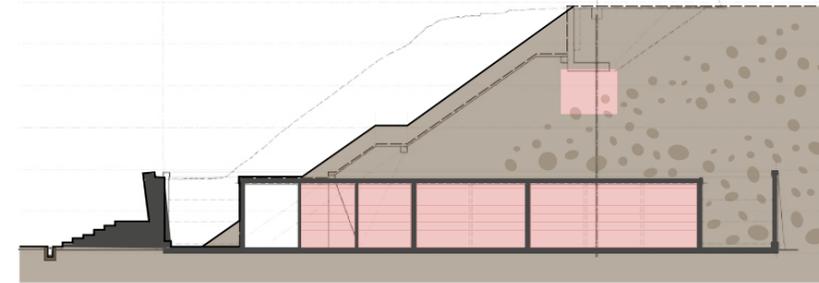
監房跡 保存（活用）整備基本設計案  
劣化・破損防止 / 保存修理・活用のための短・中期整備案

施工ステップ

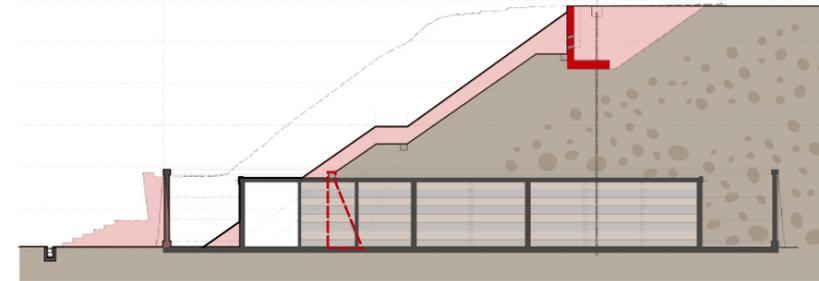
Step 1 : 第1段階法面盛土除去



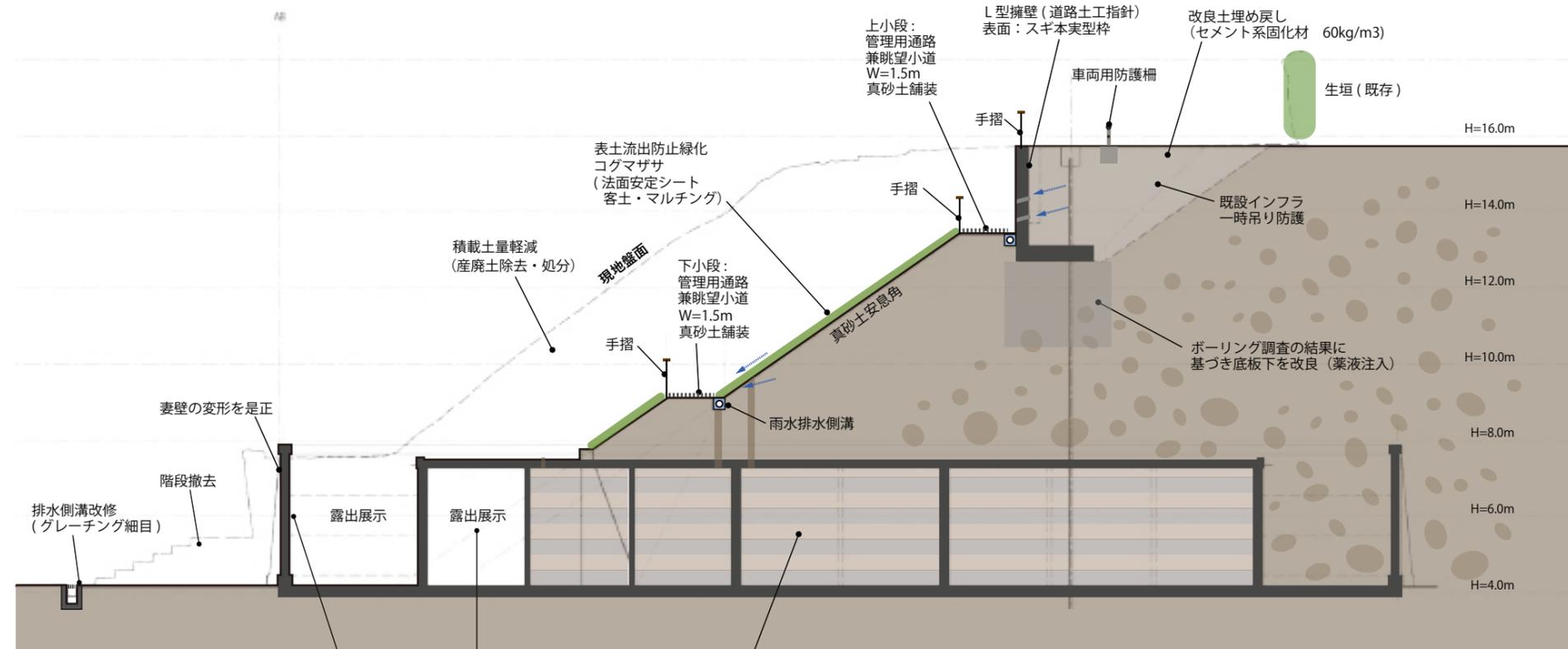
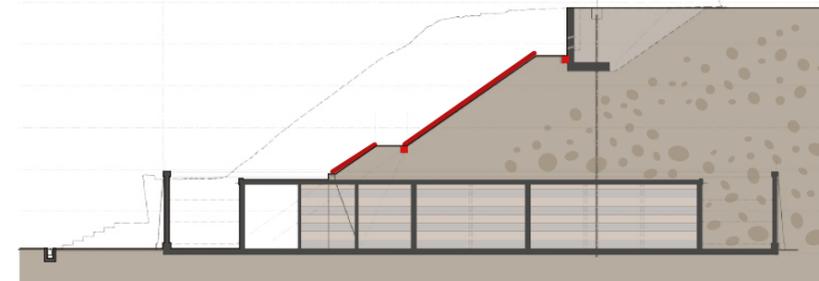
Step 2 : 内部空隙充填・一部地盤改良



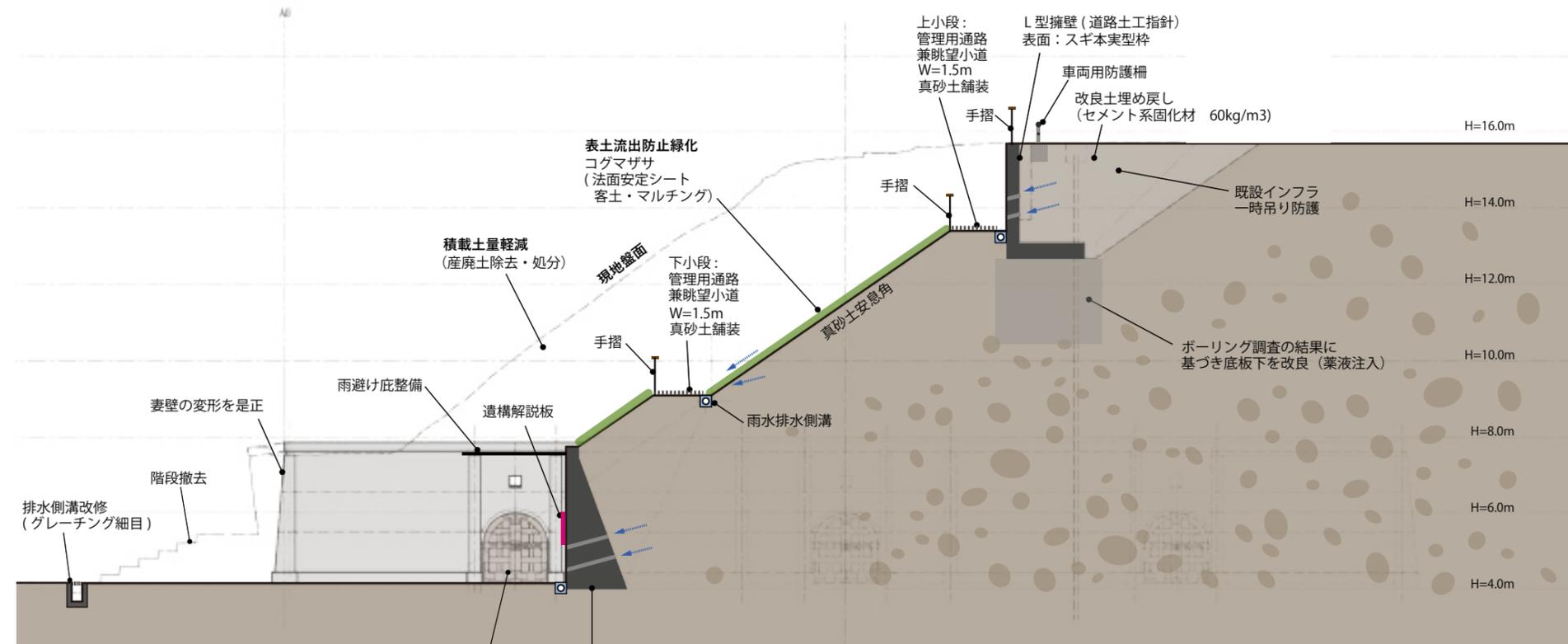
Step 3 : 第2段階法面盛土掘削、擁壁施工、階段撤去・妻側壁面変形是正



Step 4 : 法面保護工・排水対策工・その他環境整備



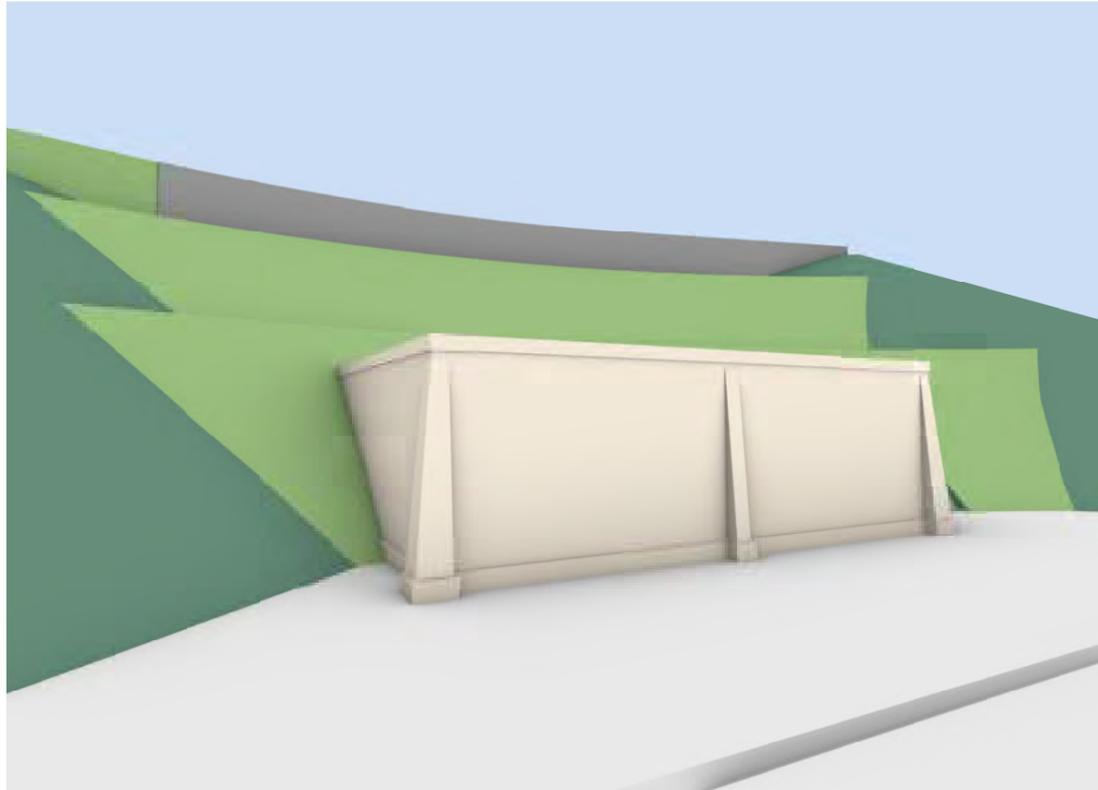
整備断面図



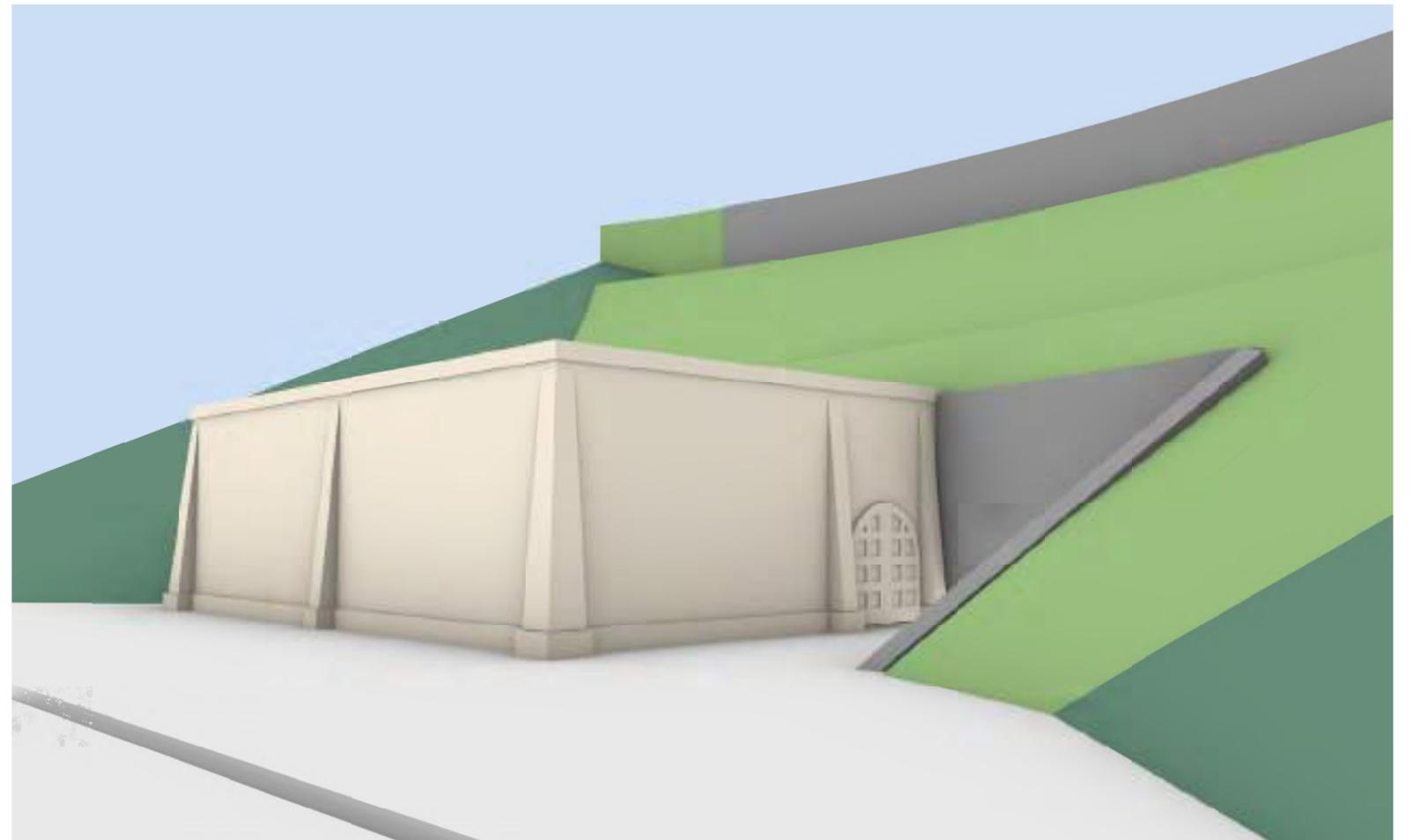
整備立面図

監房跡 保存（活用）整備基本設計案  
劣化・破損防止 / 保存修理・活用のための短・中期整備案

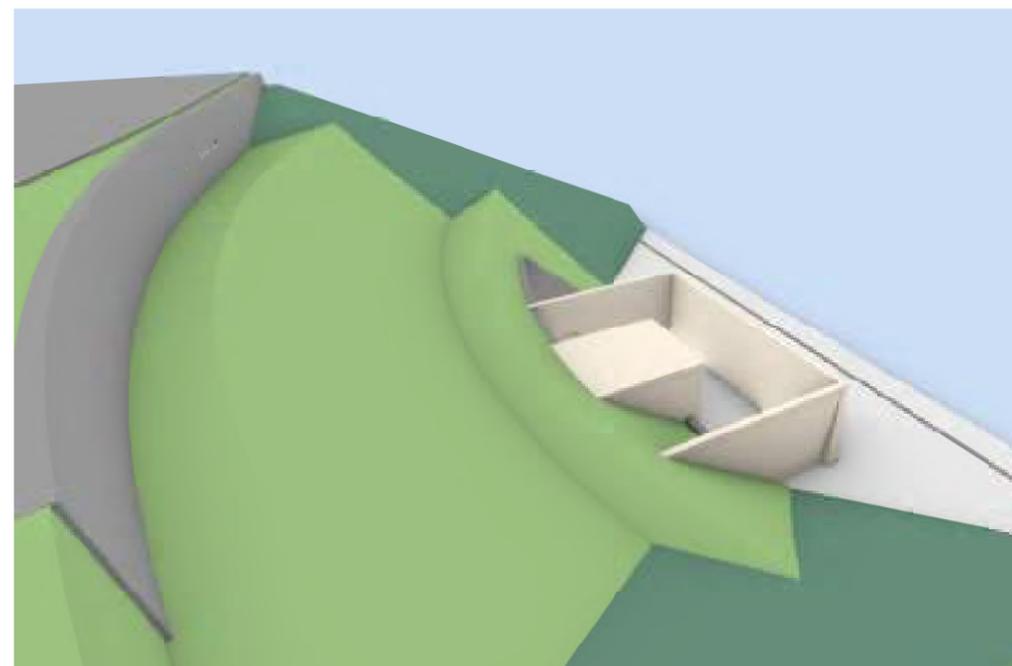
イメージ図



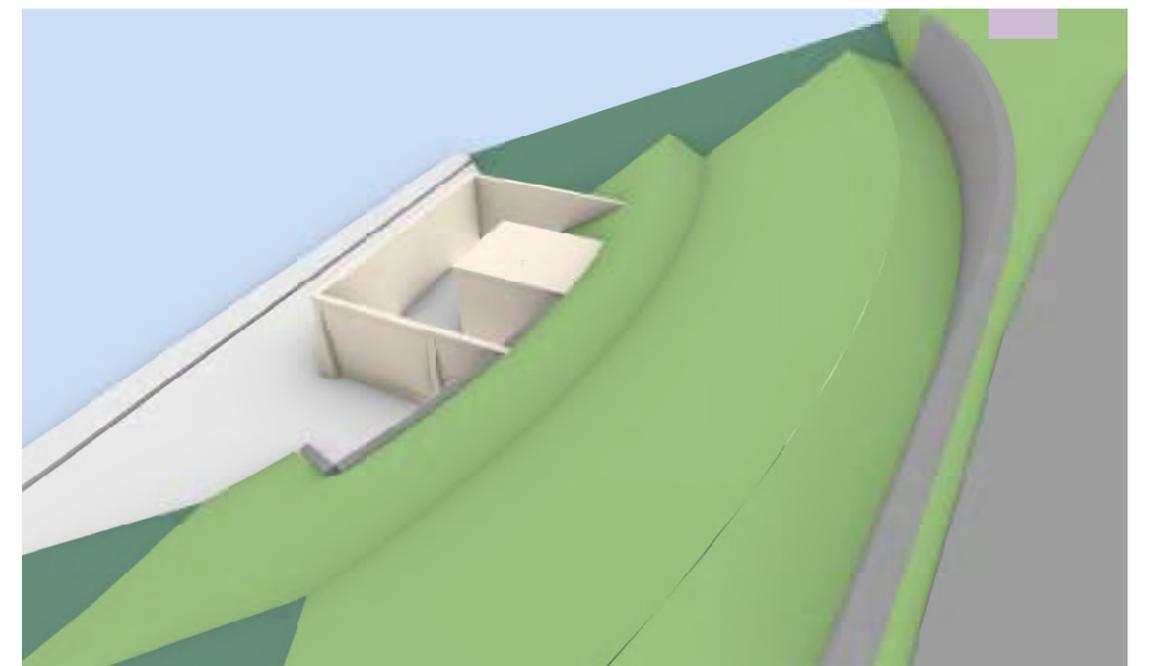
正面からみる



入口付近を見る



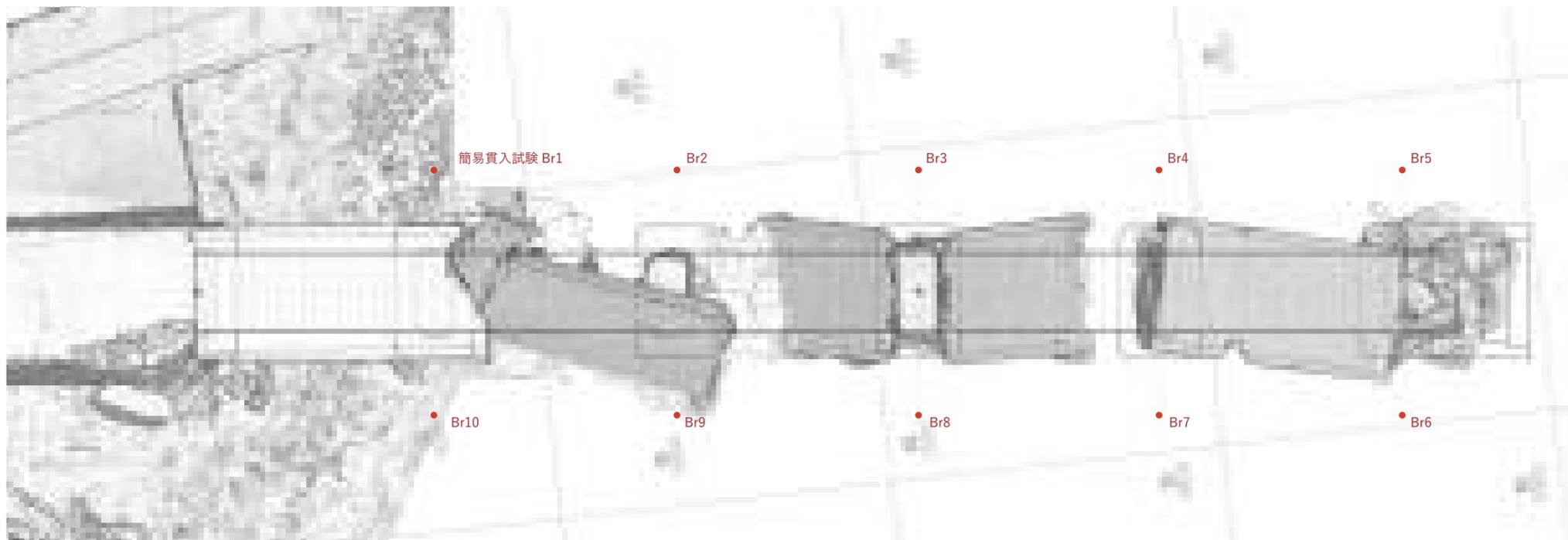
道路から見下す（納骨堂側）



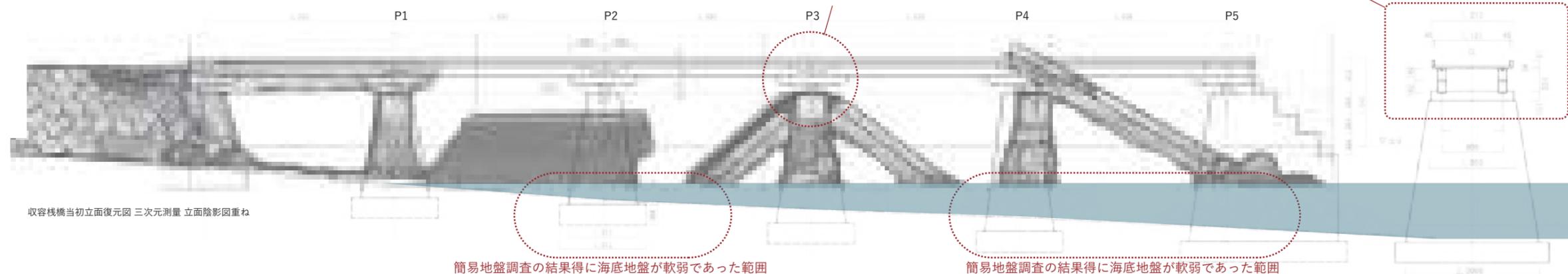
道路から見下す（本部側）

### 収容棧橋 調査結果

設計図面と現況との比較より、橋脚・橋台については概ね当初設計のまま竣工しているが、一部図面との相違点が認められ、変更を行っていることがわかる。



収容棧橋当初平面復元図 三次元測量 平面陰影図重ね



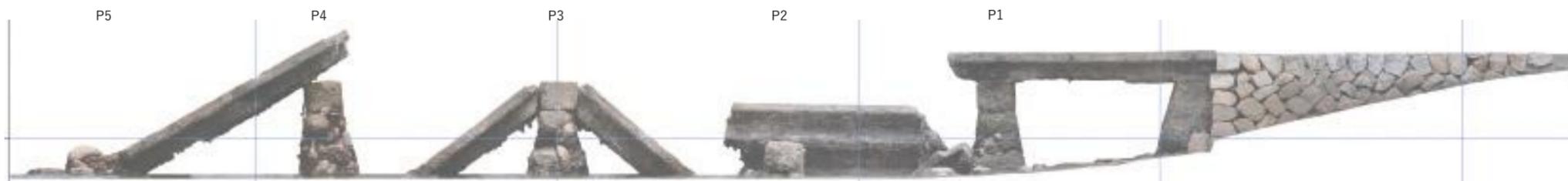
設計図面に存在した  
2尺の下りを設けず施工がなされた可能性が高い。  
粗石コンクリートにより構築された橋脚の上部にかさ上げの痕跡はなく、また枕木を設置していたボルトの跡が確認できたことから、橋脚天端は、当初より変わっていない可能性がたかい。

鉄筋コンクリート製の床版桁へ  
改築される以前は、図面通り  
木製桁であったが、桁幅は  
4尺と、現況より80cm程度狭かった。

簡易地盤調査の結果得に海底地盤が軟弱であった範囲

簡易地盤調査の結果得に海底地盤が軟弱であった範囲

収容棧橋現況立面図 写真測量オルソ立面図



### 収容棧橋 保存(活用)整備基本設計案 劣化・破損防止 / 保存修理・活用のための短・中期整備案

収容棧橋の何を保存継承するのか・何を感じ取れる場として活用すべきか

- ① 患者にとっての島への最初の入口としての象徴性  
(これまでの暮らしとの決別・島での暮らしのはじまりの場)
- ② 増改築の形跡(改変履歴) 木造桁から鉄筋コンクリート桁へ
- ③ 本来の用途として供用がなされなくなった後、今日に至るまでの時間経過を象徴する廃墟の景観
- ④ (結果として... 納骨堂(終の場)と対峙する位置関係にある)...

#### 2つの価値を守り伝える

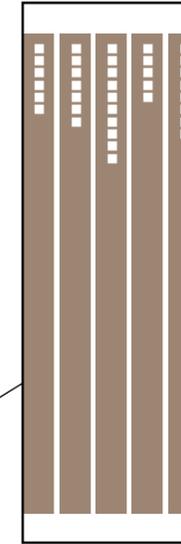
##### (1)「もの」の価値

主に水面より上の桁部分(上部構造)は手厚く保護の措置を講じてみずれ朽ちる。(保存措置≒延命措置にしかすぎない。)むしろ時間経過の流れを止めず、自然に任せることこそが価値の継承にとっては重要。一方、ここに橋があったという証跡は保護すべき。橋脚(下部構造)の痕跡を保護することは可能。

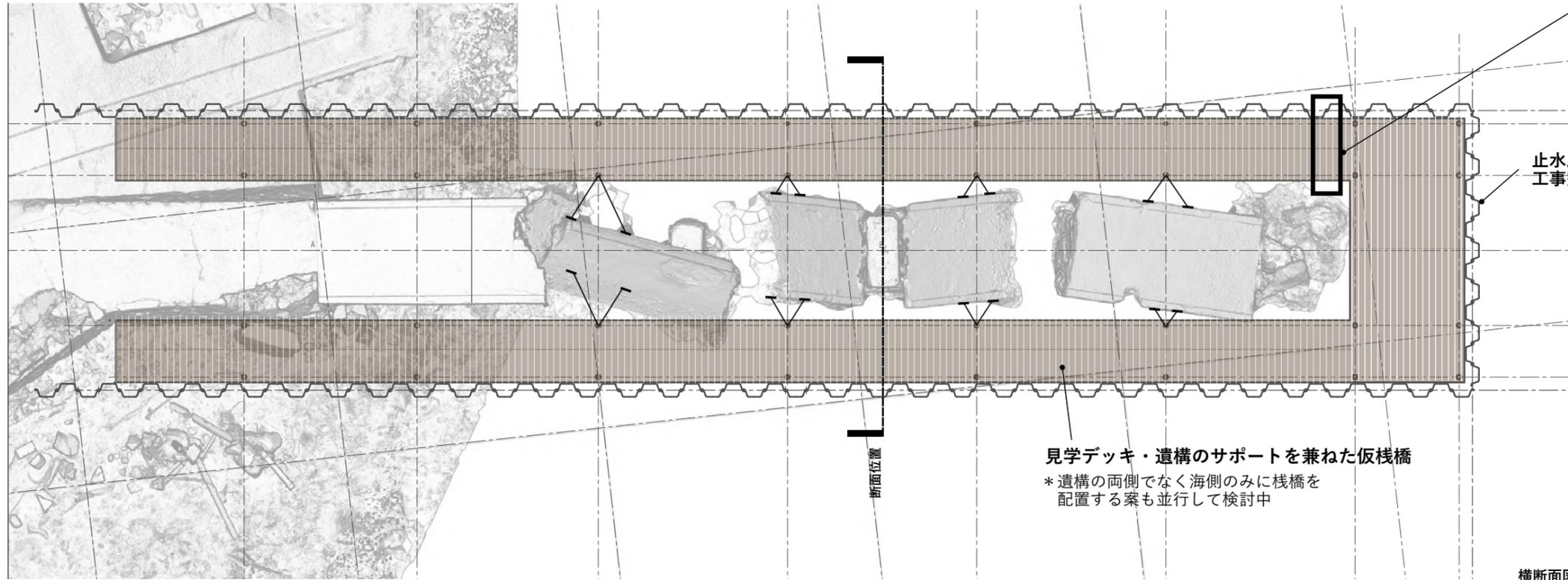
##### (2)「場」の価値

虫明からの渡船により、はじめて島へ入る場としての「象徴性」・「動線」を継承する

デッキの部分拡大

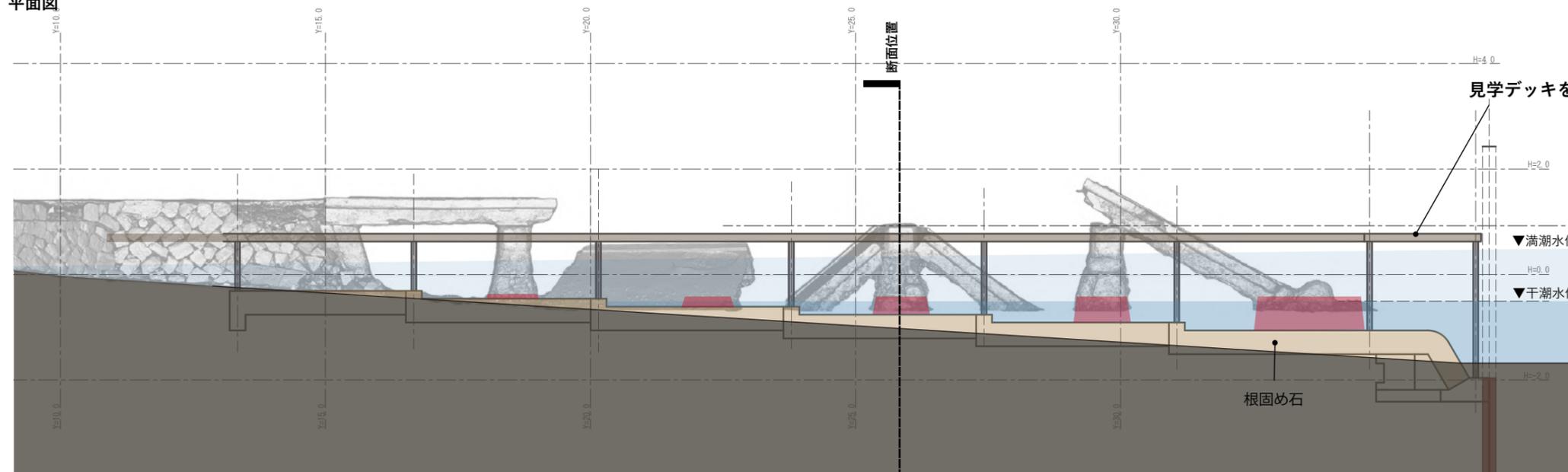
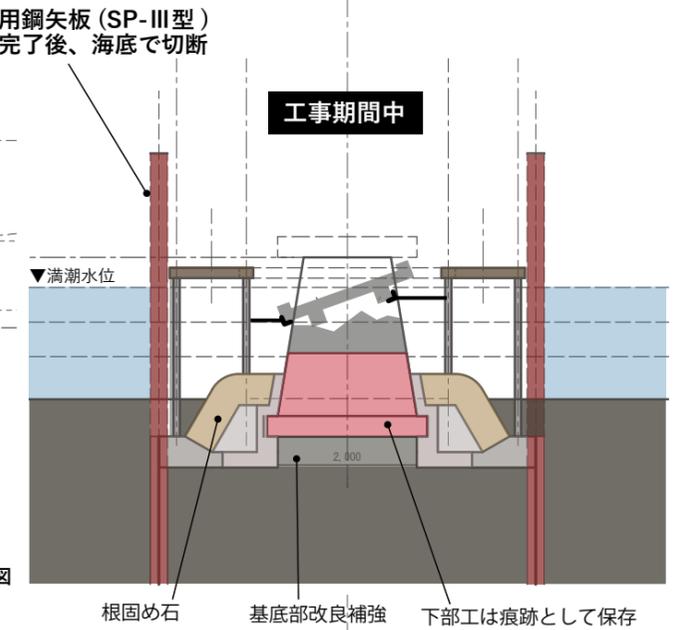


例えば、見学デッキの1材1材に入所された方の氏名を刻むあるいは、園の歴史・出来事を年表のように刻むなどの工夫も考えられる。

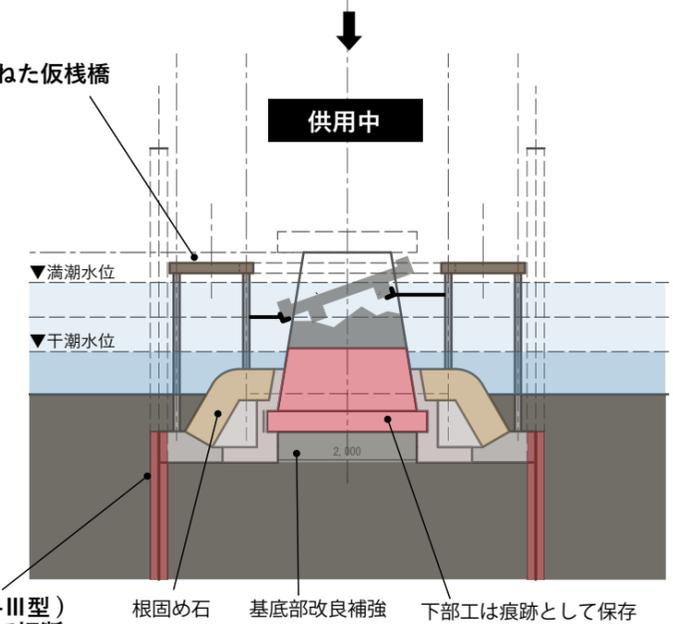


平面図

横断面図



立面図



止水用鋼矢板(SP-III型) 工事完了後、海底で切断

根固め石 基底部改良補強 下部工は痕跡として保存

収容棧橋 保存(活用)整備基本設計案  
劣化・破損防止 / 保存修理・活用のための短・中期整備案

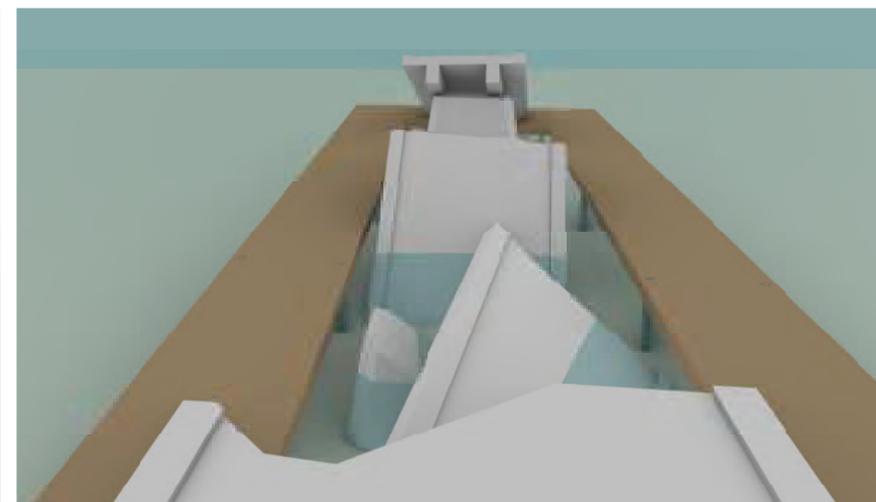
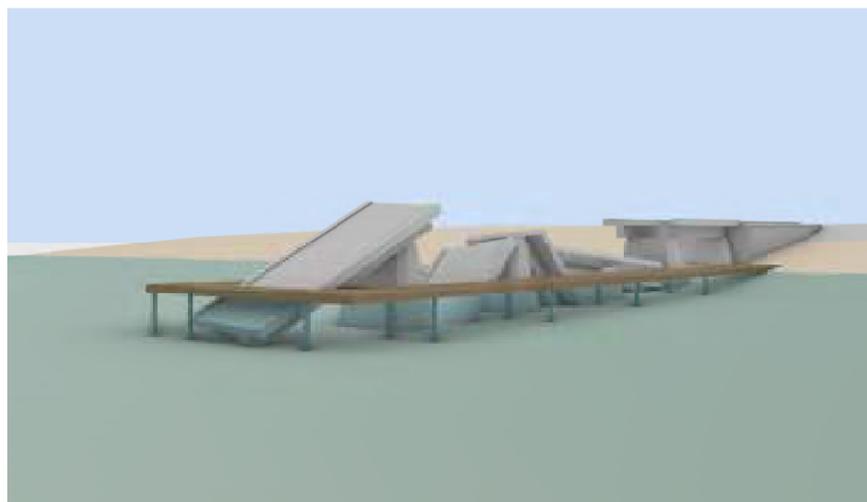
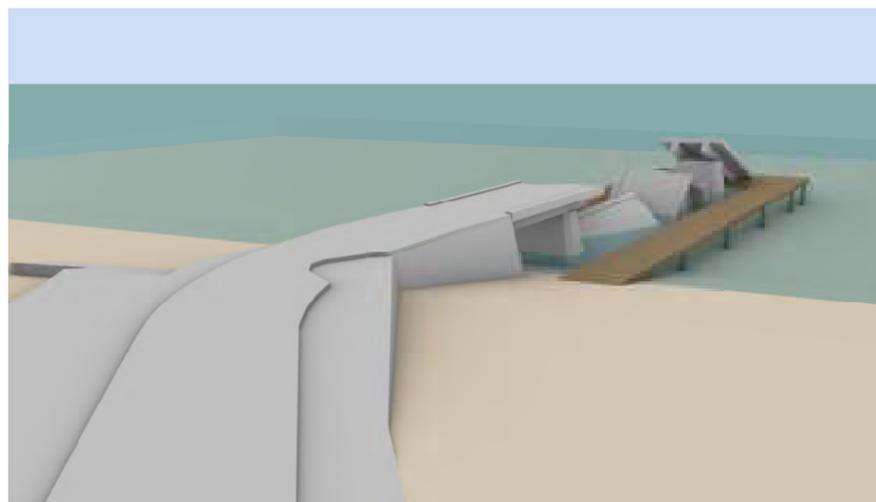
視点1(陸から)

視点2(船から)

視点3(棧橋軸線上の眺め)

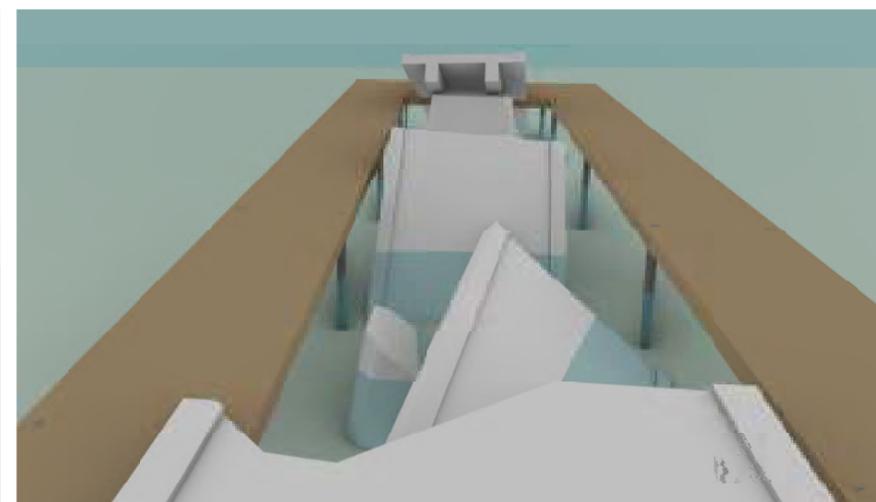
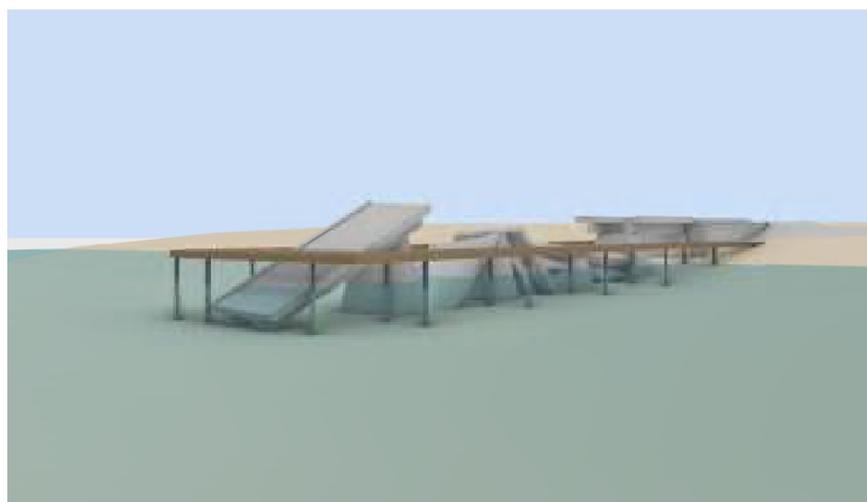
A案

(既存橋面 -1.5m)



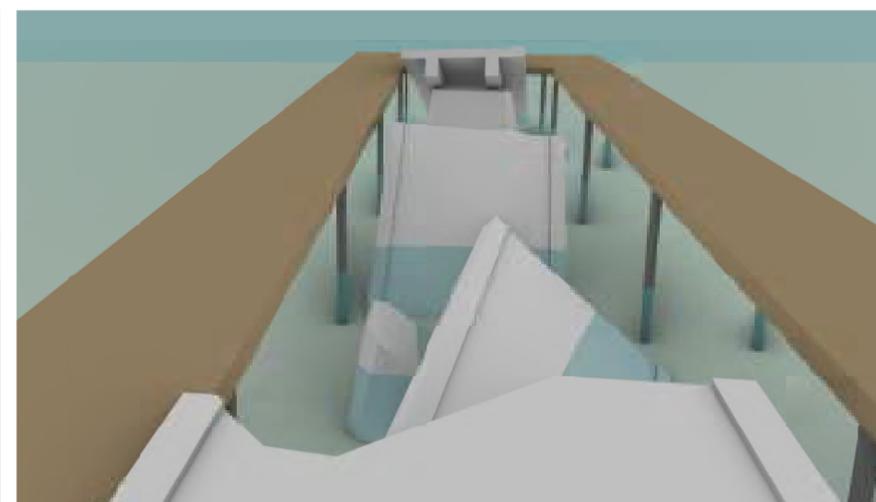
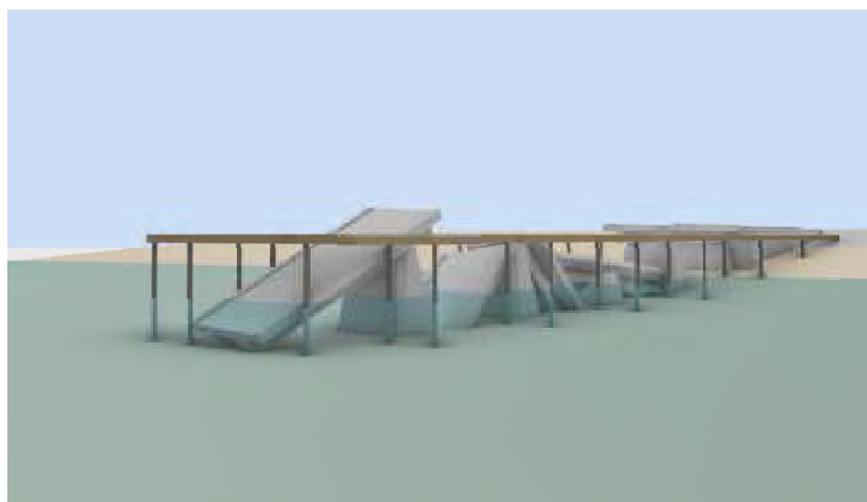
B案

(既存橋面 -1.0m)



C案

(既存橋面 -0.5m)



※両脇に棧橋を設けるべきか否かは今後の検討・協議による。

### 内白間エリア広域計画図

